

最先端研究開発支援会議(第2回)議事概要

日時 平成21年9月4日(金) 15:29～17:05

場所 総理大臣官邸2階小ホール

出席者

座長	麻生 太郎	内閣総理大臣
座長代理	野田 聖子	内閣府特命担当大臣(科学技術政策担当)
構成員	相澤 益男	総合科学技術会議議員
同	榊原 定征	総合科学技術会議議員
同	國井 秀子	リコーITソリューションズ株式会社取締役会長執行役員
同	小林 誠	独立行政法人日本学術振興会理事・学術システム研究センター 所長
同	佐々木 毅	学習院大学教授
同	白井 克彦	早稲田大学総長
同	竹中 登一	アステラス製薬株式会社代表取締役会長
同	千野 境子	産経新聞社論説委員・特別記者
同	長谷川眞理子	総合研究大学院大学教授
同	松井 孝典	千葉工業大学惑星探査研究センター所長、東京大学名誉教授
同	渡辺 捷昭	トヨタ自動車株式会社代表取締役副会長

議題

- (1) 中心研究者案及び研究課題案について
- (2) その他

議事

(注) 本会議は個別具体の研究者名や研究課題名に言及した議論がなされたため、傍聴は不可(非公開)とされた。本議事概要についても、それらが特定されない形での公表とする。

- (1) 中心研究者案及び研究課題案について

【A構成員】

今後政権が変わるであろう状況での本プログラムの今後の道行きについて、政治的な環境変化が研究者に影響を与えることが心配。

【B構成員】

この会議の第1回目で選定プロセスには合意したが、過密なスケジュールであったと感じている。支援会議でも選定についての議論をもう少し行えば良かった。政治的な問題をここで議論しても仕方がないが、新政権からも了解があったほうが好ましいと思う。

【C構成員】

プロジェクトは今後も是非進めていただきたい。支援会議の役割は政治的なこととは関係なく、決められたスケジュールに沿って粛々と30課題を決めることだと考えている。

【D 構成員】

政権が変わったのでこれまでの作業は無効とすると研究者は失望する。このプロジェクトで大きなことが出来るという夢を持った方も多い。研究者のモチベーションを考えたほうがいい。

【E 構成員】

決定は慎重に行うという考え方も理解できるが、そうすると、いつまで慎重であるべきかという問題も出てくる。乱暴な言い方だが、慎重に扱うことも、今決定することも、ある種の政治的判断が伴う。支援会議としてはこのまま粛々と進めることで良いと考える。

【F 構成員】

支援会議では当初から選定までの日程が決まっており、選定の内容について評価することがその役割。構成員が政治的決断をするということに関しては疑問。この会議は評価としての責任を全うすれば十分。新政権がここでの決定について問題があるとしたのであるならば、それはまたその時点で考えるべきこと。ここで決定を先送りすることは必要ない。

【G 構成員】

このプログラムは日本の最先端研究開発を一生懸命やるという趣旨から始まり、また経済的な危機から脱却するという趣旨であるはず。政権とか政党とかいうものではなくて、この会議では判断すべき。

【H 構成員】

この場で決定し公表して欲しい。公表しないほうが研究者にとってはストレス。

【I 構成員】

構成員の責任とは支援対象である研究課題を決めること。政治の影響で全部反故になるべきではない。何らかの変更が行われるとしたら、それはそのときに考えるべき。

【J 構成員】

予算については、精査して配分すべき。

【K 構成員】

このプロジェクトの予算が他の施策等に流れてしまうということには反対。

(以上のような議論を経て、支援対象となる30の研究課題について決定された。)

(2) その他

特になし。

(了)